

中山間地における夏秋どりを目指した「さがほのか」の花芽分化早進化技術

國枝栄二・畑瀬房次・浦田丈一

(佐賀県農業試験研究センター 三瀬分場)

【目的】

中山間地の夏期冷涼な気象条件および地域資源を活かした「さがほのか」の花芽分化促進技術について検討する。ここでは育苗条件の違いと花芽分化について検討した。

【材料および方法】

1. 供試品種：「さがほのか」
2. 試験区の構成：1)2005年度；①早期短日冷風区、②晩期短日冷風区、③早期短日のみ区、④無処理区、2)2006年度；①超早期短日1次苗区、②超早期短日2次苗区
3. 採苗時期：1)2005年度；5月上～下旬、2)2006年度；4月上～5月中旬
4. 短日処理開始日：1)2005年度；早期－7月8日、晩期－8月3日、2)2006年度；超早期－5月30日
5. 試験場所：標高400m、三瀬分場内・雨よけ育苗ベンチ
6. 耕種概要：1)2005年度；(1)苗施肥－ランナー切り離し1週間前に緩効性肥料（ロング40日タイプ）を1ポット当たり4～5粒施用。施用後40日前後で再度施用。(2)短日処理－日長8時間。遮光資材（表：シルバー、裏：黒、厚さ0.04mm）を用い13～20時遮光（ただし、短日のみ区の北

側と南側は通風放熱のため解放）。夜間開放。2)2006年度；(1)苗施肥－親株からのランナー切り離し時（5月24日）に緩効性肥料（IB化成）を1ポット当たり3粒施用。(2)短日処理－日長8時間。遮光資材（2005年度と同じ）を用い17～9時遮光（ただし、ベンチの下は開放）。

【結果および考察】

1. 2005年度：標高400m以上の中山間地において、「さがほのか」は5月上旬～下旬に採苗し7月上旬から短日処理を行うことによって、8月上旬に肥厚期以降の花芽分化ステージとなった。
2. 2006年度：2005年度に比べ早く採苗し、短日処理を行った結果、4月上旬～5月中旬に採苗し5月30日から短日処理を行うことによって、1次苗は6月15日頃に二分期、6月20日頃に花房形成期、2次苗は6月20日頃に肥厚初期～肥厚期、6月25日頃に二分期～花房形成期のステージとなった。

したがって、「さがほのか」は高設ベンチ上で短日処理を行えば、標高400m以上の中山間地では6月の長日期でも花芽分化制御が可能であった。

表1 育苗期の処理と花芽分化および出蕾の違い(2005年)

処理区	調査日			定植	第1果房	
	7月27日	8月2日	8月8日		出蕾日	S.D
①早期短日冷風区	1.6	4.4	-	8月3日	9/13	10.8
②晩期短日冷風区	-	-	4.8	8月8日	10/16	24.8
③早期短日のみ区	-	4.0	-	8月5日	9/20	12.8
④無処理区	-	-	4.8	8月8日	10/6	17.1

注)数字は5株の平均花芽分化指数を表す。

(0:未分化、2:肥厚初期、4:肥厚期、6:二分期、8:花房形成期)

出蕾調査株数:20株。

表2 育苗期の処理と花芽分化の違い(2006年)

処理区	調査日		
	6月20日	6月23日	6月26日
①超早期短日1次苗区	8.0	-	-
②超早期短日2次苗区	3.2	3.3	6.8

注)数字は表1と同条件